

しんらん同人

No.564

9・10
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-39550-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

トコトコ、トントン、バタバタ、二階の本堂を駆け回る幼児達の足音が、一階の事務室に響く夏の午後です。

コロナ自粛の中で、孫たちの元気発散の場としてやむを得ず開放しているのですが、お寺の法座も自粛していますので、感染防止対策は行っているとはいえ、感染クラスター発生の心配がつきまとっています。

自己責任という考えの中で、何処まで真剣に考えているかと言えば、なかなか難しい事です。

影響の及ぶ範囲とその内容。それが、自分のことなのか、他人の事なのか。風邪程度か、命にかかわるものなのか。本当に何処まで責任が取れるものなのか。

オリンピックは開催したい。選抜高校野球は開催したい。観光地はさびれさせたくない。〇〇は実施したいがリスクはゼロに。大難題であります。また、私たちの日

常生活においても大なり小なり同じ状況であります。

自己責任で行うからと依頼されれば承諾するしかないのが現実です。責任逃れと言われればそうかもしれません。

誓願寺が、緊急事態宣言下では法座を開催しないのは、こう考えているからです。個別のご法事は感染防止対策を取りながら心を込めて行います。

与えられた状況の中で、どの様に過ごすのか。走りに走ってきた今までを振り返り、これから見直す大事な時間であります。

阿弥陀様の慈愛の心は絶え間なく降り注いでいる安心を感じ、豊かな人生とは何かを考えてまいりましょう。

トコトコ、トントン、バタバタ、まだ幼児達の元気な足音が響いています。

合掌

※利井鮮妙和上のお歌



※

南無阿弥陀仏

忘れがらむも

思へども

忘れまじとは

忘れまじ

本当のよろこびが・・

あなたに、本当の喜びがありますか。こんな事を言うと、けしからん奴だとお怒りになりますか。でも、是非お尋ねしたいのであります。そして、本当の喜びを喜んでいただきたいのです。

ちまたには、うそが氾濫しています。そのうその中で、自分もうその日暮らしをしていることに気付かずにいるのです。

自分の考えは確かだ、自分のする事は真実だなどと思っているそのことがおかしいのです。色眼鏡をかけて見ると、世の中のもの全てにその色がついて見えるものです。自分のめがねに狂いはないと言えますか。

本当に狂いはないでしょうか。めがねに狂いがなければ、迷ったり、おろおろしたり、焦ったり、憂鬱になったり、強がってみたりすることもありません。

なむあみだぶつは光であります。この光にあうと、限りある自分であり、日々欲望追及に過ごしている自分であることがうなずかれるのです。

世の中のもの何ひとつとして、あてになるものは無いということも判ってくるのです。なむあみだぶつは命であります。

迷える自分を抱きとって、限りなき命を与えてくれるのです。永遠に生き抜く力がめぐまれるのです。この限りなき光と、限りなき命が、阿弥陀仏であります。

阿弥陀仏は、迷いに沈み、煩惱に泣いている者を、必ず救わずば止まぬと願い給うて救いを成し遂げて仏と成りたもうたのであります。この願を信じ、なむあみだぶつと称える者は、最上の幸福者となるのです。

昭和三十八年発行

「しんらん同人」より再掲

誓願寺初代住職 故岡本泰雄



迷いの中で、当てにならぬものを当てにして、崩れ行く幸福を掴んで喜んでいくことは哀れなことです。

智慧光の中に、なるほどそうだったと云わずき、素直に受け取り、煩惱に焼かれるままの自分を、温かく力強い慈悲のみ手に、抱きたもう如来のましますことを信じてゆく、そこに本当の喜びがあるのです。

誤解

浄土真宗に対する誤解や批判は実に多い。その一つに地獄や極楽に関するものがある。

「誰も行ったこともない、見た人もいない、地獄や極楽の話をして、念仏すれば極楽に生まれるし、そうでない者は、地獄に落ちるなど言っているが、荒唐無稽なことである。」

おそらくこの方達は、自分勝手な極楽や地獄を考えて、それを否定しているであろう。

極楽とは何であるか、地獄とは何であるか、仏教に説く本当の意義を知っているのか。仏教で説かれる地獄極楽ではなくて、自分の想像したものなのである。

地獄や極楽を問題とする場合には、三世因果を理解しなくてはならない。

三世とは過去世、現在世、未来世であって、現在世はただ偶然に現在世がある

のではなく、過去世の因によりて現在の果があり。現在世までの果が因となって、未来世の果を生むというのが、三世因果である。

だから、現在かく考え、かく行っているのは、過去世からの因の現れであって、現在かく考え、かく行っていることが、未来世に果となってゆくと説かれるのである。

されば、地獄は前もって存在する場所を指しているのではなくて、今現に作りつつある自己の罪の現れゆくところを地獄というのである。

「火の車 つくる大工は無けれども 己がつくりて 己が乗りゆく」という歌がある。火の車とは地獄から迎えに来る車ということで、この火の車を作る大工はいない、自分が作って自分が乗ってゆくのだという意味である。

例えば、刑務所は現存しているものだが、罪を犯す者がいなければ、刑務所は

必要がない。罪を犯す者があるから刑務所がなくならないように、地獄の因を蒔くことがなかったら地獄はないのである。地獄は自ら作り出しているのである。

地獄とは、迷いの中の極苦の世界である。この苦悩の迷闇より救い出して、大涅槃界、すなわち悟りの世界に生まれしめんと誓いたもうたのが弥陀の本願である。

この本願を信じ、念仏申す者の生まれゆく世界が極楽であって、願力によりて出来上がった清浄安穩な世界であり、光明限りなく、寿命限りなき世界である。

なお、地獄極楽はこの世にあるという人があるが、これも間違いである。地獄の因を作っているも地獄があるのではない。極楽往生の因を恵まれていても、この世が極楽となるのではない。

心して聴聞しなくてはならない。

合掌

ご法座等 のご案内

関東地方にコロナによる自粛令が発令されている期間は、諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動再開の予定です。
詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

9月

9・12
(日)

緊急事態宣言発令のため、婦人会
追悼法要(平田聖子師)・医療相談
は中止致します。

9・19
(日)

■午前十時～
なかよしクラブ
(乳幼児から小学生まで)

9・26
(日)

■午後一時～
彼岸会法要・祥月命日合同法要
【高田慶慈師】

10月

10・10
(日)

■午前十時～
定例法座
■正午～
医療相談

【佐藤公彦医師】

10・17
(日)

■午前十時～
なかよしクラブ
(乳幼児から小学生まで)

10・24
(日)

■午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【山上正尊師】

副住職 法話

古賀明徳

YouTubeで広がる世界

YouTubeで動画を見ることが緊急事態宣言中多くあります。最近見た動画の中に、小学1年生の少年が作文を読むものがありました。

妹が生まれてくることをとても楽しみにしていた少年、でも、生まれてくる前にお母さんが病気になってしまい、妹は生まれてくることができませんでした。しかし、少年は妹が「死んだ」と作文中で決まて言いませんでした。妹は天使になったと受け止め、お母さんの病気が治り、退院して行った旅行は初めての「4人」での旅行でした、天使になった妹は、僕にたくさんの「生きることはありがたいということ」を教えてくださいましたという内容でした。

私たちはこの世界で生きている中で「死とは別れである」と思い込まされているのかもしれませんが。まだ幼い頃であったなら、この少年のように「死」は悲しいことではなくて、天使や仏様のように尊い存在になるための通過点であると、もっと素直に受け入れることができるのかもしれない。出会いと別れを通じて「生かされているいのちの尊さ」を感じることもできるのかもしれない。

「仏教」を改めてお聞かせいただくと、大切なことを忘れていた自分自身に気付かせていただくことができます。改めて仏教という教えに感謝させていただくことができます。

築地本願寺も様々な法話などをYouTubeで発信しています。「お坊さんのひとくち法話 古賀」で検索していただくと私の法話をご覧いただけます。緊急事態宣言の中、YouTubeの様々な動画で、仏教をお聞かせいただく時間を持つてみるのもとても素敵な時間です。